

第2回 高梁市地域防災力向上委員会 発言要旨（主なもの）

日時：令和2年2月25日（火）

15時～16時30分

場所：高梁市役所 3階大会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題【各項目についてそれぞれ事務局から説明後、意見交換】

（1）高梁市地域防災力向上の取り組み体系について

<意見交換>

（三村委員長）

マイタイムライン講習会は年齢層もばらついており、感想もいい反応である。地域のリーダー格の参加が多く男性の比率が高いが、女性の方が長生きである。高齢者の避難をどうするかなど、幅広く声を拾えるようにしないといけない。

（柏原委員）

マイタイムラインを広める方法として、アンケートの結果では学校教育での実施が24%。学校での活用方法が考えられないか。

（大福委員（代理、赤迫補佐））

学校での防災教育の主なものは避難訓練。マイタイムラインもぜひ活用できればと思う。

（藤沢委員）

若い世代の参加については、ゲーム感覚で楽しめるような仕組みで子どもが来ると、親も一緒についてくる。子どもを取り込んで親も取り込むような方法が効果的。

（中村委員）

マイタイムラインは水害を対象としているが、北山地区は土砂災害のリスクが高い。土砂災害に対応したものができるといい。

（柏原委員）

「逃げキッド」は洪水を対象としたものだが、ポイントは3つある。地域のリスクの把握と、情報の入手方法と、避難行動計画の作成。土砂災害について、地域のリスクはハザードマップで危険区域の把握をし、情報入手については土砂災害警戒情報がある。

（濱子委員）

土砂災害警戒情報は気象台と県が共同で発表する。警戒レベル4相当となり、全員避難となる。一般の人に向けて気象ワークショップを行い、情報が出た場合に素早く行動することを考えていただく。

（神田委員）

学校や地域は行事が詰まっており、新たに日にちを入れるのは難しい。学校や地域の行事等人の集まる場所へ行ってブースを設けるなどする。学区のことを展示し、興味を持

ってもら。防災士は市内に約40人いるが、何をしたいかわからないという声を聞くが、全国では19万人おり、地域の期待は大きい。自助の部分をしっかりやらないと、空洞化し共助に入っていない。地区防災計画も皆で考えたい。

(藤沢委員)

気象ワークショップはいい取り組み。自主防災組織の設立には地域のリーダーが必要のため、防災士の人材育成をやっていないといけない。県でも平成26年から協議会を立ち上げ支援をしている。今年度は高梁市では3人が防災士の資格を取得した。また、研修会を県民局単位で開催しており、約110人が参加した。

(渡邊委員)

成羽町には自主防災組織がない。大きいコミュニティが成羽川の南北にあり組織結成に向けての動きはあるが、協議に時間が必要であり、モデル地区の募集に間に合うか。

(吉原委員)

福地地区の立ち上げの会に合わせてマイタイムライン講習会を行った。福地は土砂災害の危険区域が多い地域、玉川も浸水したが土砂災害の危険区域も多い。考え方は逃げ遅れゼロが根本であるが、台風が来れば大雨が降り、土砂災害が起きる。自主防災組織は重要で必要なもの。成羽にないと聞いてびっくりした。大きい所で作っても新しい人が入らないという現状や、下の方まで伝わってこないということもある。コミュニティがしっかりできあがった地域で協力してやっていくのがいい。

(加藤委員)

団の活動としては、昼間仕事で地区に戻って来られず、本署にお願いするということがある。市域が広いので、地域では機能別消防団が署より早く活動することが多い。災害に対しては、川に近い所は水防活動、中山間部は土砂崩れへの対応となる。土砂崩れのため独居老人宅にたどり着けないということもあり、皆さんに考えてもらいたい。

(丸川委員)

豪雨災害前から幼稚園・保育園・こども園を回ってパネルシアターをしている。今年から、子どもたちにどういときに避難するかを伝えている。普通救命士の資格を全員がとっており、訓練講師の助手などをしていく。

(山口委員)

旧市街地では自主防災組織が立ち上がっているところもあるが、一つの町内会であったり3~4の町内が集まったコミュニティなど、形態や人数もバラバラ。組織の話になると、こんな物があるとか物資の置き場所がないとか現実的な話になって流れたりする。どういった規模がいいとか何をするかなど、市に入ってもらいたい。豪雨災害があつて、以前より関心は高くなっており、タイミングはいい。

(横林委員)

この1か月各地で訓練があり、社協の事務員が参加して勉強している。民生委員の「災害時一人も見逃さない運動」に福祉委員も関わっており、福祉委員の会議でも話題になった。避難したくない人にどう声掛けをするか、車いすの人をどう連れて逃げるかなど具体的な話が出た。地域に出向いて分かった。

(2) 自主防災組織の設立支援ワークショップについて

<意見交換>

(三峰委員)

高梁は組織率が低い。県の派遣講師をしているが、要望もない。退職後地域に役立ちたいと思い町内で組織を立ち上げた。40戸足らずだが、身近で細々したところまで把握しやすい。大きい組織は全体の把握が難しいのでは。災害の時に町内の人に電話連絡により連携し、町内の意識が高まった。小さいエリアでも成り立っていくと思う。高齢化で難しい部分もあるが、消防団員が地域に満遍なくいる。

(新倉委員)

備中地域の消防団は以前3分団あったが、団員数の減少で1分団にした。団員は減っているが自営業や農家など地域で仕事をしている人が多く、そこそこの出勤率となっている。

(赤木委員)

幼年防火クラブ、婦人防火クラブ、消防協力隊、機能別団員などがある。婦人防火クラブは昭和58年に結成し当時400人以上だったが、今は80人ちょっと。辞める一方で成り立たず、将来が懸念される。自主防災組織に移行していくのかと思う。災害が発生すると、仕事をしている人はそっちの方面で動き地域を離れるため、お年寄りが地域を守る主役になる。

(蜂谷委員)

自主防災組織やマイタイムラインなど、ニュースで取り上げている。7月豪雨の時と比べて、市民の取り組み体制が少し変わってきたかなと感じる。「やらにゃあいけんかな」になってきている。楽しくできる方法がないか社内で考えている。高梁はいざやるときには団結力が強いが、やるのは面倒くさい。保険会社と組んで、自主防災組織を立ち上げ一定の基準をクリアすれば保険料の減免があるなどの仕組みが考えられる。得をする部分があるのも、人を動かす要因になる。マイタイムラインは個人的なことを書くため公表しづらいが、マイタイムライン大賞など評価してもらえればやる気が出ると思う。チャンネルが一つ増えたので、防災訓練を生放送し、訓練でMVPを決めたりしてもいいのでは。

(中村委員)

自主防災会に消防団員は入らない。有事の際は団の活動として動く。団をあてにして訓練しても、実践では使えない。消防署から、自主防災組織の手伝いをするように言ってもらえたらスムーズにできるのでは。

(赤木委員)

消防団の指揮命令系統で動く。ただ、団員が地元で情報を取り、それに対処するということになれば活動できる。できる事とできない事はあるが、どうするかフィードバックしていく。

(三村委員)

元々の旧市町のシステムや学区単位のしきたりがあり、合わせるのは難しい。地域の歴史・文化・やり方などを一回整理して最大公約数的なところを取っていき、全体としては高梁市のやり方で進めていく。難しいことは皆さんの勇気で越えていくしかない。持続可能な地域を子孫の代に残していくという覚悟で、防災の力を向上させていくという流れが出来ればよいと思う。

6. 閉会

(三村委員長)

それぞれの委員が感じた課題について、どうすれば解決するか。それぞれでできるものを持ち寄って、自分はこういう分野でこういう活動ができるなどの提案があればいいのではないかと思う。みなさんの力を借りて、高梁市の地域防災力の向上に関する取り組みを進めていきたい。